

平成29年度各部の重点取組の取組結果

部(局)名	環境部
部(局)長名	中野 勝

【基本姿勢】

健全で豊かな環境を守り引き継いでいくため、吹田市第2次環境基本計画改訂版に基づき、環境の保全及び創造に関する施策を計画的に推進します。

併せて、本市地球温暖化対策新実行計画や一般廃棄物処理基本計画をはじめとする環境関連計画の進行管理を一体的に行うことにより、施策や取組をより効果的に推進します。

市民、事業者、行政がそれぞれの立場での役割を果たし、協働による取組を積極的に進めるとともに、広域的に連携した取組を進め、環境先進性の高いまちづくりを目指します。

【達成度について】

- A：達成（設定した目標を達成することができた。）
 B：一部達成（設定した目標の一部のみ達成することができた。）
 C：未達成（目標達成に向け取り組んだものの、目標達成には至らなかった。）

【重点課題】

	重点課題	平成29年度 達成状況
1	南吹田地域地下水汚染の浄化対策の実施	B
2	一般廃棄物の減量・再資源化の促進	A
3	省エネルギー、再生可能エネルギー導入の促進	B
4	多様な主体と連携した広域的な生物多様性保全の取組の推進	B

部(局)名	環境部
-------	-----

重点課題 1	南吹田地域地下水汚染の浄化対策の実施
--------	--------------------

全体の達成度
B
一部達成

目指すべき方向 (中期的な目標)	地下水汚染の広がりが見られることから、早急に汚染拡散防止措置及び浄化対策に取り組み、地域住民に対する責務を果たします。
---------------------	---

活動目標	具体的な取組実績
今後の地下水汚染の対応について、専門家のご意見を踏まえ、南吹田地域全体の浄化目標を設定します。	汚染北東部については浄化計画を作成しました。一方、汚染北西部については、地下水の状況を詳細に把握し今後の対応を検討しています。
汚染北東部の更なる汚染拡散防止及び浄化措置に関する合意書を締結します。	汚染北東部の更なる汚染拡散防止及び浄化措置を実施するため、平成30年3月27日付けで合意書を締結しました。
汚染北東部については、高濃度汚染域の対策に着手します。	対策の着手には至っていませんが、対策実施に向け工事を進めています。
汚染北西部の汚染状況について、調査を行い詳細に把握します。	汚染北西部に観測井戸を設置し、地下水質及び地下水流向を詳細に把握しました。

達成目標	達成状況	達成度
汚染北東部における汚染拡散防止及び浄化対策に関する工事計画作成	汚染北東部では、更なる対策を行うため、工事計画（実施設計）を作成しました。	A 達成
汚染北東部の高濃度汚染地域での汚染レベルの低減	対策実施に向け工事を進めており、対策の着手には至っていません。	C 未達成
汚染北西部における汚染拡散防止措置及び浄化対策に着手する環境を整えます。	汚染北西部の地下水の状況を詳細に把握し、今後の対応について検討を進めています。	B 一部達成

総合評価・総括
<p>汚染北東部では、高濃度汚染域での対策および更なる対策により、汚染北東部全域の浄化を進める目途が立ちました。</p> <p>汚染北西部については、地下水の状況を把握しました。</p> <p>今後、汚染北東部については、速やかに工事を進め対策に着手するとともに、汚染北西部については、専門家の御意見も踏まえながら、今後の対応の検討を進め、地域住民の皆様の不安解消に向けた取組を進めます。</p>

部(局)名	環境部
-------	-----

重点課題 2	一般廃棄物減量・再資源化の促進
--------	-----------------

全体の達成度
A
達成

目指すべき方向 (中期的な目標)	家庭、事業所から排出される一般廃棄物の減量・再資源化を促進し、資源循環型社会の形成を目指します。
---------------------	--

活動目標
見直しを実施した廃棄物減量等推進員制度に基づく推進員の方の積極的な活動や、アジェンダ21すいた等との連携により、雑がみ等の資源化の促進や食品ロス削減に向けた啓発を実施します。
近隣自治体と連携して、レジ袋削減・マイバッグ持参の推進を図ります。

具体的な取組実績
廃棄物減量等推進員を対象に全体会（2回）や環境施設見学会（5回）、講習会（1回）等の雑がみ等の資源化の促進や食品ロス削減に向けた啓発を実施し、多数の方が参加されました。また、アジェンダ21すいたのフラッグシッププロジェクト（食品ロス削減）と協力し、飲食店及び利用客に対する啓発を検討しています。
北摂地域の7市3町と食品スーパー9社の間で、レジ袋の無料配布中止を趣旨とする「北摂地域におけるマイバッグ等の持参促進及びレジ袋削減に関する協定」の締結式を平成30年2月18日に行い、平成30年6月1日よりレジ袋の無料配布を中止します。

達成目標
資源ごみ、特に紙ごみのリサイクル率を向上させます。
家庭、事業所から排出される可燃ごみを削減します。

達成状況	達成度
一般市民及び廃棄物減量等推進員を対象に講習会を実施し、ごみ減量・再資源化について啓発しました。また、再生資源集団回収実施団体及び廃棄物減量等推進員に対して、雑がみに関するチラシを送付し、紙ごみのリサイクルについて啓発する等リサイクル率向上に努めました。	A 達成
一般市民を対象に、ごみ減量に関する講習会やエコクッキング、吹田市のごみ処理施設見学会（3回）を実施し、可燃ごみの削減に繋がる啓発に努めました。また、出前講座を5回実施し、ごみの減量について市民に説明しました。事業系ごみ減量啓発として、多量排出占有者及びごみの排出量が月1.5t以上の事業者に対して、再生資源に係る研修を実施し、資源ごみのリサイクル率向上に努めました。	A 達成

総合評価・総括
様々な講習会や見学会等を通して、多くの市民、事業者にごみの減量・再資源化について啓発することができました。また、北摂地域の7市3町と食品スーパー9社の間で、レジ袋の無料配布中止を趣旨とする「北摂地域におけるマイバッグ等の持参促進及びレジ袋削減に関する協定」を締結することにより、市民及び事業者がレジ袋を使用しないことでごみの発生抑制及び温室効果ガス（二酸化炭素等）の排出量削減を図る契機となりました。

部(局)名	環境部
-------	-----

重点課題 3	省エネルギー、再生可能エネルギー導入の促進
--------	-----------------------

全体の達成度
B
一部達成

目指すべき方向 (中期的な目標)	率先行動として公共施設での省エネルギー設備の導入や再生可能エネルギーの普及拡大に資する取組を進めるとともに、開発事業を低炭素なまちづくりに向けて誘導します。
---------------------	--

活動目標
公共施設での省エネルギー設備の導入や再生可能エネルギーの比率の高い電力調達を図ります。
環境まちづくり影響評価制度の活用とともに、環境まちづくりガイドライン【開発・建築版】の内容等の見直しを行い、低炭素なまちづくりに向けて、開発事業のより効果的な誘導を図ります。

具体的な取組実績
小中学校の大規模改修工事等においてLED照明等の省エネルギー設備の導入を行っています。また、一部の公共施設において、吹田市電力の調達に係る環境配慮方針に基づく入札を実施し、10月から再生可能エネルギーの比率の高い電力の供給を受けています。
環境まちづくり影響評価制度を活用し、市立吹田サッカースタジアムに関する事業などの審議を行いました。また、環境まちづくりガイドライン【開発・建築版】の改定を実施しました。

達成目標
公共施設でのエネルギー消費量の削減を図ります。
環境まちづくりに向けて環境性能の高い開発事業に誘導します。

達成状況	達成度
省エネルギー設備の導入等を行っていますが、公共施設全体では、目に見えたエネルギー消費量の削減には至っていません。	B 一部達成
環境まちづくり影響評価制度の活用や、現行の環境まちづくりガイドライン【開発・建築版】の運用により開発事業の誘導が行えています。また、同ガイドラインを改定したことにより、平成30年度以降において更なる誘導が可能となりました。	A 達成

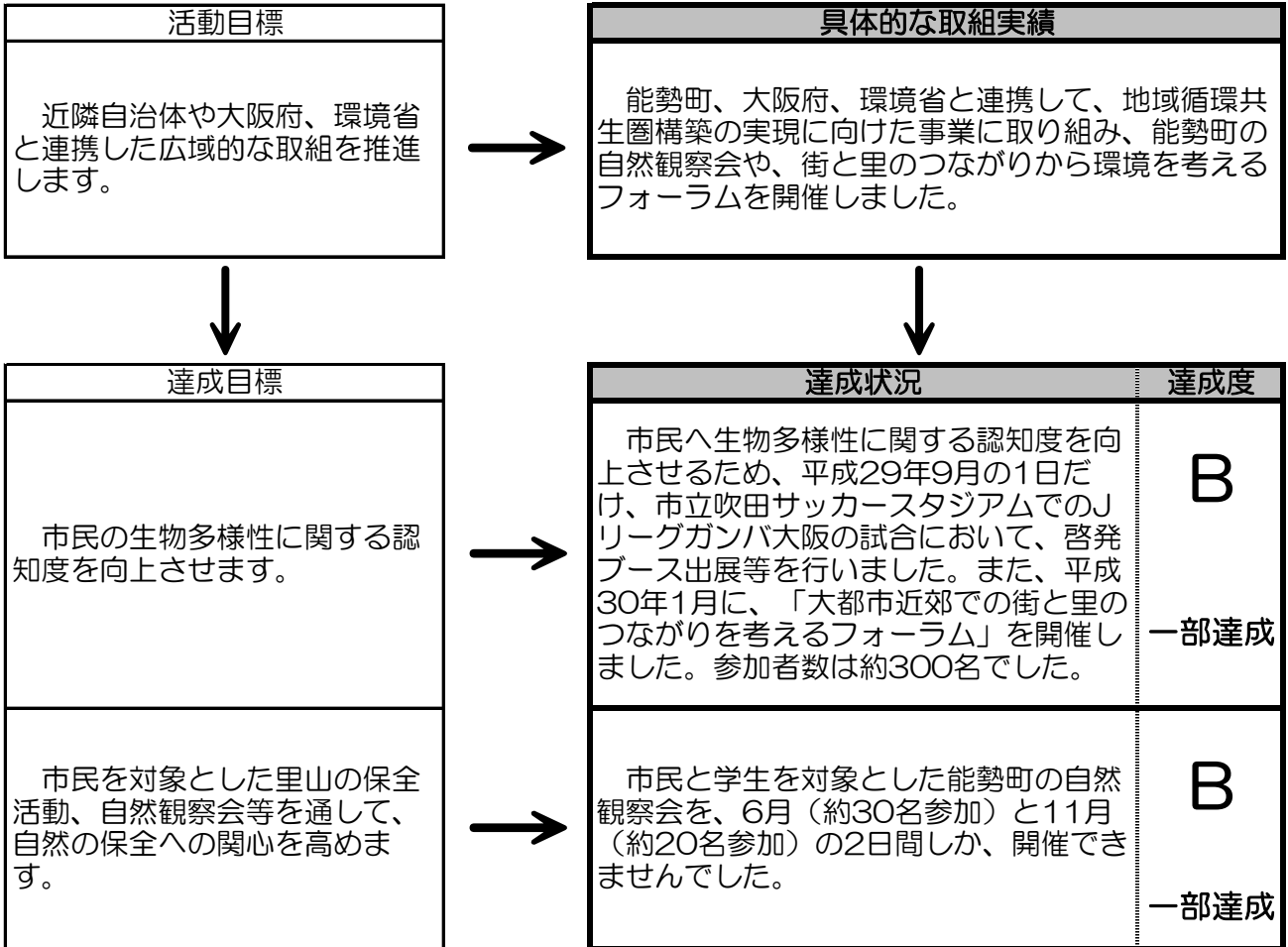
総合評価・総括
<p>公共施設での省エネルギー設備の導入や再生可能エネルギーの普及拡大に資する取組を進めています。目に見えるエネルギーの削減効果を得るため、環境まちづくり基金を運用する等により、更に取組を加速させる必要があります。</p> <p>また、改訂を行った環境まちづくりガイドライン【開発・建築版】を十分に活用し、開発事業者に対して、より高い環境性能への誘導を行っていく必要があります。</p>

部(局)名	環境部
-------	-----

重点課題 4	多様な主体と連携した広域的な生物多様性保全の取組の推進
--------	-----------------------------

全体の達成度
B
一部達成

目指すべき方向 (中期的な目標)	多様な主体と連携して広域的に取組をすすめることで、人々が生物多様性の価値を認識し、その持続可能な利用にむけ積極的に行動するよう誘導します。
---------------------	---



総合評価・総括
<p>生物多様性の保全は、自然の豊かな地域のみで取り組むことではなく、全域が都市化された本市においても、人々が生物多様性の価値を認識し、その持続可能な利用にむけ積極的に行動することで、必ずしも市域に限定されない、広域にまたがる生物多様性を保全することにつながります。</p> <p>平成29年度は、能勢町や大阪府、環境省と言った多様な主体との連携を通じて、幅広い市民に対して生物多様性保全の啓発をおこないました。今後は、引き続き啓発をすすめるとともに、市内における木材利用の促進など、実際の里山保全、生物多様性保全に繋がる活動に取り組んでいくことを予定しています。</p>